

(様式1)

大 学 名	國 學 院 大 學	学 問 分 野	人文科学
専 攻 等 名	大学院文学研究科神道学専攻、日本文学専攻、日本史学専攻、日本文化研究所		
拠点のプログラム名称	神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成		
拠点リーダー氏名	小林達雄	所属部局・職	大学院文学研究科・教授
プログラムの概要	縄文時代から現代に至る多様な日本文化の基層をなしている神道の起源・歴史的展開と日本文化との関連を国学的手法で研究・解明し、その成果を国内外に発信する拠点を形成する。		
拠点形成の目的・必要性	<p>本拠点の最大の特徴は、神道学・宗教学等の分野で高い研究教育実績を有する本学大学院文学研究科と神道を中心とする日本文化に関する共同研究に豊富な経験と実績を有する日本文化研究所との組み合わせにより、各々の研究教育機能を組織的有機的に活用して神道及び日本文化の研究を進め、その成果を内外に発信する拠点の形成ということにある。</p> <p>本拠点形成の目的は、建学の精神である神道を組織的に研究することによって本学の研究教育機能の質的向上と活性化を促すと共に、国際的にも注目を集めている神道の起源や歴史的機能等についての最新の研究成果を内外の研究者に発信することによって、神道の独自性と普遍性を明らかにする研究をより一層促進することにある。欧米での古くからの神道研究のみならず、アジア諸国でも神道に関する文化的歴史的関心が高まっている今日、神道研究を中核とする本拠点の形成は国際的にも必要とされている。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>本拠点を形成するために実施する研究計画は、大別して二つのプロジェクトから成り立っている。一つは、これまでの神道関連の日本文化に関する内外の研究成果及び本拠点が研究遂行中の中間的成果を、広く発信してその利用・研究促進を図ることである。具体的には神道関係文献の英訳・オンライン公開化等に係わるシステム強化を推進するとともに、併せて日本文化の重要な要素である神道や伝統宗教の現代的意義等に関する調査・研究を同時並行的に行う極めてアップトゥーデートの研究推進プロジェクトである。もう一つは、神道の起源・本質や独自性と普遍性、あるいはその文化的機能等を神道学・宗教学・考古学等の学問分野から明らかにすることによって、神道が日本文化の基層文化として多様で複合的な日本文化の形成・発展、維持等にいかなる影響・機能を有して現在に至っているのかについて解明する研究プロジェクトである。この二つのプロジェクトの有機的連携によって、神道と日本文化に関する内外の情報をオンラインで発信・受信しあうインターネットを駆使した国際的な研究を進め、その中間的成果を可及的速やかに発信することによって、当該研究をさらに進展させていくという研究方法を採用することになっている。こうした研究計画・方法によって、本拠点は予め設定された研究目標に、より緻密で着実に到達することが可能となるのである。</p>		
教育実施計画	<p>本拠点の形成には、広い学問的視野を有して神道及び日本文化を専門的に研究する若手研究者を養成・輩出するための教育システムの構築が必要不可欠である。そのために、大学院博士課程神道学・日本文学・日本史学の3専攻が互いに連携・協力して、「神道・日本文化研究」のための有機的横断的なカリキュラム編成や適切な教員配置を行うなどの改革を計画している。例えば、各専攻の学生が主体的に自由に選択・履修できる主専攻関連分野の「共通領域科目」を体系化した副専攻的領域を設け、この体系的履修による学問的刺激によって主専攻の研究を促進・深化させるシステムの導入等である。さらには、この大学院での教育システムを研究所の共同研究等に有機的に組み込み、研究所での様々な研究に教員・学生が参画して共同研究を遂行する過程で、学生の「課題探求能力」を開発・促進する実践的教育をより一層進め、共同研究への参加実績を単位として認めるなどの措置を導入し、在学中の「課程博士」取得促進等、大学院・研究所の連携による教育体制の充実・強化によって「本拠点」の形成を担う若手研究者の教育・養成計画等に取り組む予定である。</p>		

神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成

